

2016年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	国際会計研究科	身分	教授
氏名	磯村 和人		
NAME	KAZUHITO ISOMURA		

1. 研究課題

（和文）経験から理論を構築する実務家の思考方法とそれらに対応する教材開発に関する研究

（英文）Study on practitioners' thinking method to build theory from experience and educational material development for them

2. 研究期間

1年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

背景と目的

経験科学である経営学では、科学的研究だけでなく、実務家の経験から理論を構築することで、研究の幅を広げ、応用性を高めることが期待できる。そこで、本研究では、まず、意思決定し、行動することを求められる実務家がどのような独自の思考方法を発達させているか、その思考プロセスと方法を理論的に研究することを目的とした。続いて、どのような教材が実務家のスキルや判断力を高めることに貢献するか、これまで蓄積されてきた教材について調査した上で、実際に活用できる教材を開発することとした。

研究計画・内容

本研究では、理論的研究と応用的研究という二つの研究の実施を計画した。理論的研究では、実務家の思考プロセスとその方法について関連する基本的な文献を収集し、レビューを行うこととした。応用的研究では、代表的な研究・教育機関によって作成されているケースを中心に教材を体系的に収集し、それらがどのような目的で作成され、どのような効果が期待されたものかを調査した上で、実際にいくつかケース教材を開発することとした。

研究成果

理論的研究については、実務家が現場において、どのような技能、知識のタイプを蓄積し、判断を下すことで、行動に結びつけているか、そのプロセスに関するバーナードの研究をレビューした。このレビューに基づいて、実務家が経験と経営哲学からどのように理論を構築するのか、そのモデルを構築し、その研究成果を学内紀要に発表した。

応用的研究については、実務家が経験や哲学から理論を構築する際に、既存の科学的研究を参考にしつつ、その比較とそれらの研究で不十分な点を考慮しながら、自らの理論を形成していることを踏まえて、理論とケースを同時に含んだものを教材として開発し、研究成果を実務家向けの専門誌に発表した。